

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和6年度事後評価結果表

大 学 名	京都工芸繊維大学
整理番号	B07
構 想 名	OPEN-TECH INNOVATION ～世界に、社会に、地域に開かれた工科大学構想～

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

（総括評価） A	十分な取組状況で事業目的が達成され、今後も持続的な発展が期待できる。
（コメント） 事業期間全体において、①人材、②カリキュラム、③場の魅力化により、先鋭3分野（デザイン・建築、高分子・繊維材料分野、グリーンイノベーション）の世界的拠点「ASIAN HUB」の形成と、地域社会のグローバル化を牽引する高度専門技術者「TECH LEADER」の養成が進められたものとなっている。 具体的な事業展開においては、①人材面では、「海外教育連携教員派遣事業」や国内外での職員英語研修による大学組織の国際化の進展、②カリキュラム面では、学士課程から博士前期課程までの6年一貫教育及びその後の博士後期課程を見据えた3×3構造改革による学年・学事暦の柔軟化、ジョイント・ディグリー、ダブル・ディグリー、マルチプル・ディグリーといった多様な形態の国際共同学位プログラムによる学生の留学や国際交流の活性化による国際通用性の向上、③場の面では、KYOTO Design Lab（学内組織）や京都クオリアフォーラム（地域の産学連携プラットフォーム）等の活動により、学内だけに留まらない地域社会での存在感の拡大など、工学系単科大学の特徴を活かした多様な取組みがなされた。中でも、海外一線級研究者ユニットの誘致によりトップレベルのデザイン賞を多数受賞した点、英語鍛え上げプログラムと独自開発した英語スピーキングテストなどの教育により成果指標の目標として定めたTOEIC730点以上の学生が大幅に増加した点、大学間協定校の倍増により受入留学生数が増加した点、「TECH LEADER 指標」によるきめ細かい評価方法により工繊コンピテンシーを備えた TECH LEADER 養成が進展した点、そして研究力強化等により外部資金が増加した点は評価できる。 一方、日本人学生の送り出しに関する指標は、コロナ禍の影響が考えられるところではあるが伸び悩んでおり、他にも外国語のみで卒業できるコースの在籍者数や外国人教職員数といった項目でも目標値を下回っている。外国語のみで卒業できるコースの設置数等は順当に伸びているため、事業の取組みを通して、国際化を進める体制は整備されたと思われる。それらを有効に活用していくことが今後の対応として望まれる。 最後に、スーパーグローバル大学創成支援事業による補助期間は終了したが、引き続き徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、我が国社会の国際化の牽引に寄与されることに期待する。	